



2024年7月11日

各位

株式会社ラクーンホールディングス
代表取締役社長 小方 功
(コード番号：3031 東証プライム)
問い合わせ先：
取締役財務担当副社長 今野 智
電話：03-5652-1711

「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」 および「株主・投資家との対話の実施状況」について

当社は、2024年7月11日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について、当社の現状を分析し対応方針について決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

I 「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について

1. 現状の分析

当社は、ROEを主要指標の一つとしております。高い限界利益率を背景に、成長への投資を行いつつ営業利益率の向上を目指すとともに、積極的な株主還元を行うことでROEの向上を推進する方針としております。

当社の平常時のROEの水準はおおむね10%台半ばから後半を推移しており、おおむね6%台で推移している株主資本コストを大幅に上回る水準となります。ただし、直近5年間を振り返ると、2022年4月期においては減損損失の計上によりROEが6.7%に低下、また、2024年4月期は中長期的な事業拡大の観点から、広告宣伝費・販売促進費を大幅に増強し顧客獲得ペースを加速することに取り組んだ結果、ROEは6.5%まで低下いたしました。2024年4月期のROEである6.5%は当社が試算した株主資本コストとほぼ同水準となります。

また、2024年4月期のPBRは3.0倍となりました。自社株買いを実施し資本効率の改善に努めましたが、株価の低迷に伴い2023年4月期と同水準に留まりました。

(指標推移)

	2020年4月期	2021年4月期	2022年4月期	2023年4月期	2024年4月期
売上高(百万円)	3,477	4,364	4,789	5,320	5,808
営業利益(百万円)	706	1,196	1,126	1,193	566
営業利益率	20.3%	27.4%	23.5%	22.4%	9.8%
当期純利益(百万円)	451	800	354	668	325
自己資本(百万円)	3,988	5,310	5,289	5,315	4,778
ROE	13.5%	17.2%	6.7%	12.6%	6.5%
PBR	3.3倍	13.4倍	5.9倍	3.0倍	3.0倍
1株当たり純資産(円)	197.68	239.23	238.12	240.65	223.24
配当性向	27.4%	46.2%	125.2%	59.5%	92.4%

2. 対応方針

①資本収益性の向上

2025年4月期は増収を継続しつつ、利益面はV字回復を見込んでおり、ROEの向上を見込んでおります。

次期中期経営計画の中でもROEを主要指標の一つとして位置付ける予定としており、引き続きROEの向上を推進してまいります。また、自己株式取得についても積極的に実施し、ROE向上に活用していく方針です。

②株主還元

当社は、株主に対する利益還元を経営上の重要課題として認識しており、事業の成長投資を目的とした資金需要と経営基盤の強化のための内部留保の充実等を勘案しながら、連結配当性向45～50%を目途に実施することを基本方針としております。

なお、自己株式取得については、株価水準、資金の状況、市場環境などを総合的に勘案した上で積極的に実施してまいります。

③IR活動の推進

当社では積極的な情報開示及び、株主・投資家との対話が企業価値を向上する上で重要であると考えております。そのため、コーポレートサイト上に掲載するIR情報の充実化を図るとともに適時開示基準に該当しない場合でも株主・投資家にとって有用である情報については積極的に任意開示を行ってまいります。また、国内外を問わず、株主・投資家が当社の情報を平等に入手できるよう英文開示資料や英語吹き替え版の動画など、日本語版と英語版で遜色ないコンテンツの充実化に努めてまいります。

II 「株主・投資家との対話の実施状況」について

2024年4月期の株主・投資家との対話の状況は以下の通りです。

1. 2024年4月期 実施内容

活動内容	回数
株主総会	1回
決算説明会	4回
個別面談	118回（国内 71%、海外 29%）
※出席者（社）数に関わらず、開催回数をカウント	

2. 対話の主な対応者

代表取締役社長、取締役財務担当副社長、IRマネージャー

3. 対話の主なテーマや関心事項

特に気づきが得られた対話や説明により理解を得られた対話の事例

- ・直近の業績や今後の見通し、来期の考え方について
- ・今期施策の戦略的広告投資の内容とその効果について
- ・来期の広告戦略（投資）について
- ・EC事業の購入客数の増加と購入客単価の減少について
- ・新料金プランの導入後の動向について
- ・市場環境の変化（円安やインフレ等）の影響について
- ・ゼロゼロ融資の返済開始によるフィナンシャル事業に与える影響について

- ・デフォルト率（売上原価率）の変化について
- ・金利上昇がサービスに与える影響について
- ・キャッシュ残高の考え方について
- ・コロナの前とコロナが起こったことによる影響、収束してきた今についての認識
- ・2025年4月期終了の中期経営計画についての会社の評価と相違点
- ・中期経営計画の方針の変更（客単価の増加→購入客数の増加へ変更した背景）について
- ・賃上げの実施とその影響について
- ・株主還元（配当性向と自己株取得の方針）について

※決算説明会での質疑応答は当社ホームページの以下のページ Q&A に開示しております
https://www.raccoon.ne.jp/company/investor/financial_info.html

4. 経営陣や取締役会に対するフィードバックの実施状況

対話による寄せられた意見については、IR 担当役員より取締役会へ適宜報告を実施しております。現場に近い意見については、各種面談実施後に IR 専任者より事業部門の責任者等に共有しております。

5. 対話を踏まえて取り入れた事項

- ・決算説明会の質疑応答部分の公開について
2024年4月期第1四半期決算説明会より質疑応答の要約をホームページで公開
- ・フィナンシャル事業のサービス別の売上高の開示について
2024年4月期第1四半期決算説明資料にて開示

以 上